

キヨズミオオクジャク オシダ科

Dryopteris namegatae (Sa.Kurata) Sa.Kurata

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



倉吉市 2003.9.3/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では人の出入りの多い公園周辺の照葉樹林3カ所で確認。自生地と個体数ともに少なく、人為による環境変化が心配される。

■**特徴**：照葉樹林の林床に生育する常緑性のシダ植物。葉は単羽状複葉、長さ70–80 cm、幅20–25 cm、中央部で最大となる。上面葉脈の凹入顕著。葉片の鱗片は黒褐色、光沢がありほぼ全縁。胞子囊群は羽片中央部につく。イワヘゴとオオクジャクシダの中間的な性質をもつとされる。

■**分布** 県内：鳥取市、倉吉市、米子市の低地照葉樹林。県外：本州（関東以西）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：照葉樹林の保護。

■**文献**：86.

執筆：田中昭彦

ナガバノイタチシダ オシダ科

Dryopteris sparsa (Buch.-Ham. ex D.Don) Kuntze

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



八頭町 2010.10.5/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内の自生地は八頭町の低山谷間に1カ所のみ。

■**特徴**：暖帯性の常緑性シダ植物。葉は卵状長楕円形、上部は急に狭くなる。羽片は2回羽状深裂、最下羽片は三角形、羽状に深裂。鱗片は膜質、淡褐色、披針形。胞子囊は全面につく。山地に多産するミヤマイタチシダは、鱗片が暗褐色、胞子葉は羽片間隔が広く、胞子囊は上半部のみ。本種の分布については県内山間低地の調査が必要。本種は染色体数の種内変異が報告されており、種の進化を解明する上でも、日本海側の自生地は重要。

■**分布** 県内：八頭町（スギ林内の谷間、コナラ林がわずかに残っている斜面）。県外：関東以西の主に太平洋側暖地。日本海側には稀産。

■**保護上の留意点**：里山のコナラなど落葉広葉樹林の保護。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

ホソイノデ オシダ科

Polystichum braunii (Spenn.) Fée

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



大山 2010.6.14/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：中部地方以北に産し、大山に隔離分布する。大山における生育環境は限定的で不安定なため、絶滅が懸念される。

■**特徴**：大山の標高1200 m以上の低木林下に見られる夏緑性シダ植物。大山北側の尾根上、風の通りやすい低木の下に生える。崩落が続く尾根で、生育範囲はせまい。イノデ類の葉はふつう直立するが大山では風あたりが強く、地面にはう傾向がある。根茎は塊状。葉柄の鱗片は淡褐色、膜質、広披針形–長楕円状披針形、上部のものは狭くなる。葉は叢生、2回羽状複葉、羽片は中部が大きく下部に向かって短くなる。小羽片は鈍頭、細鋸歯縁、先は芒状。キャラボク林下にはえるカラクサイノデは小羽片が鋭頭、辺縁に深い鋸歯がある。

■**分布** 県内：大山。県外：北海道、本州（中部以北）、山口県。

■**保護上の留意点**：大山山頂部の自然植生保護。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

ツルデンド オシダ科

Polystichum craspedosorum (Maxim.) Diels

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



若桜町 2004.10.17/撮影：坂田成孝

■選定理由：個体群が小規模で離散的である。若桜町，鳥取市佐治町で確認されているが，個体数は少ない。個体数も減少気味である。

■特徴：山地の陰湿な岩上の隙間に根を下ろして小さな群落を形成する。数枚の葉を垂れ下げ，長さ20 cmほど。葉身先端部の羽片は短くなり，先端は中軸だけになって無性芽をつくり，新たな個体を形成する。しかし，県内自生地の個体群は小規模で，個体数も減少気味である。

■分布 県内：若桜町，鳥取市佐治町。県外：北海道，本州。中国，朝鮮，沿海州。

■保護上の留意点：渓谷沿いの岩場およびその周辺を自然植生の保護。

■文献：—

執筆：田中昭彦

カラクサイノデ オシダ科

Polystichum microchlamys (H.Christ) Matsum.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



大山 2010.7.5/撮影：坂田成孝

■選定理由：中部地方以北に産し，大山に隔離分布する。県内では，大山山頂部のみ生育し，個体数も少ない。

■特徴：大山山頂部のキャラボク林下に生育する夏緑性のシダ植物。個体数はわずかである。葉は斜上して叢生する。葉柄は葉身より短い。鱗片は薄い膜質，淡褐色で上にいくほど赤みがかかり，幅が狭い。葉身は長楕円形-広披針形，2回羽状細裂-中裂，中部の幅が広い。小羽片は羽軸に翼となり，卵形，鋭頭，浅-深裂，先は芒状になる。胞子は羽片の中肋よりにつく。県内林下にふつうに見られるサカゲイノデは中軸下部につく鱗片が広卵形，淡褐色，下向きに圧着する。

■分布 県内：大山。県外：北海道，本州（中部以北）。

■保護上の留意点：大山山頂部の自然植生保護。

■特記事項：分布西限

■文献：—

執筆：坂田成孝

ミヤマワラビ ヒメシダ科

Thelypteris phegopteris (L.) Sloss. ex Rydb.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



氷ノ山 2006.8.14/撮影：坂田成孝

■選定理由：県内での生育は高地尾根沿いの岩場や林縁に限られる。沖ノ山では過去の林道工事により個体数が減少した。

■特徴：ブナ帯域の林縁にみられる夏緑性の小型シダ植物。根茎は長く，横走する。葉身は三角状長楕円形，長さ，幅ともに10-15 cm，2回羽状深裂-全裂。胞子囊群は裂辺の辺縁近くにつく，苞膜を欠く。県内ではおおむね標高900 m以上の場所に自生する。

■分布 県内：大山，沖ノ山，氷ノ山。大山に最も多い。県外：北海道から九州。

■保護上の留意点：高標高地尾根沿いの岩場，林縁草地の保護。

■文献：—

執筆：田中昭彦

ヘイケイヌワラビ イワデンダ科

Athyrium eremicola Oka et Sa.Kurata

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



江府町 1990年代/撮影：田中昭彦

■**選定理由**：全国的に自生地が少なく希少。県内では江府町内のブナ林内にわずかに残るが、近年チシマザサの繁茂により生育環境が失われつつあり、絶滅する可能性が非常に高い。

■**特徴**：山地下に生育する常緑性シダ植物。タニイヌワラビに似るが、葉柄は赤紫色、葉柄基部に黒褐色の鱗片がある、葉身は切れ込みが浅く、1回羽状深裂、披針形、長さ25 cm、幅8 cmほど。

■**分布** 県内：江府町。県外：兵庫から中国地方の山地林下にややまれ。

■**保護上の留意点**：ブナ帯域の落葉広葉樹林の保護。継続的な生育調査。生育地のチシマザサ刈り取り要検討。

■**文献**：—

執筆：田中昭彦

ミヤコイヌワラビ イワデンダ科

Athyrium frangulum Tagawa

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



若桜町 2001.10.4/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内東部の山地常緑広葉樹林下に生育するが、谷間の自然林の減少とともに減少してきた。自生地周辺では年を追ってシカの食害がひどくなり、最新の自生状況は未確認。

■**特徴**：谷間の湿ったところに生育する夏緑性のシダ植物。根茎は短く、直立、葉が叢生。葉身は卵形、3回羽状に全裂。胞膜は不規則な鋸歯縁。谷間に見られるホソバイヌワラビに似るが小羽片が長楕円形で左右相称、羽軸裏面は無毛であることで見分ける。シマイヌワラビには小羽片の中肋上に直立する軟刺毛がある。若桜町の自生地では、シカの食害で林床の草本がほとんど失われている。人家の近くに自生の可能性は残る。

■**分布** 県内：若桜町、八頭町。県外：本州（関東以西）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：谷間の自然植生保護。シカの食害対策。

■**文献**：86.

執筆：坂田成孝

ミヤマメシダ イワデンダ科

Athyrium melanolepis (Franch. et Sav.) H.Christ

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



大山 2010.7.5/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では大山の標高1300 m以上に生育する。亜高山帯が本来の生育地であり、県内では分布が限られ個体数が少ない。

■**特徴**：県外では高山帯の草原内や亜高山帯の森林内に生育し、県内では大山に生育する大型の夏緑性シダ植物。大山では六合目の低木林帯より山頂部のキャラボク林下、ユートピア、槍ヶ峰の灌木帯に自生する。葉は叢生し、2回羽状複葉。小羽片は三角状披針形で鋭突頭。下部の羽片は短くなる。鱗片は黒褐色で光沢があり、いちじるしくねじれる。類似した多産のサトメシダは、低地の草地に限られ、葉は3角形-卵状3角形、下部の羽片が短くない点で異なる。

■**分布** 県内：大山。県外：北海道、本州（中部以北）。

■**保護上の留意点**：大山高標高域の低木帯、自然草地の保護。採取防止。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

シマイヌワラビ イワデンダ科

Athyrium tozanense (Hayata) Hayata

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧IB類 (EN)



高鉢山 1990年代／撮影：小林一彦

■**選定理由**：県内では自生地が高鉢山に限られ、個体数も極めて少ない。森林の荒廃にともない株数が減少してきた。絶滅の危険性が高い。初版以降の生育確認はできていない。

■**特徴**：陰湿な谷沿いに生育する夏緑性の小型シダ植物。葉身の長さ15–20 cm、幅5 cm程度、2回羽状複葉。孢子嚢群は裂片の中肋よりにつく。羽片基部の小羽片は内先に出るのが本種の特徴。高鉢山の自生地は、狭く険しい谷沿いの岩場で近づく道がない。調査は著しく困難であるため、近年の生育実態は不明である。

■**分布** 県内：鳥取市佐治町（高鉢山）。県外：本州（福井・岐阜以西）、四国、九州。屋久島以外ではごくまれ。

■**保護上の留意点**：自然林の保護。

■**文献**：99。

執筆者：田中昭彦

ハコネシケチシダ イワデンダ科

Cornopteris christenseniana (Koidz.) Tagawa

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



八頭町 2005.7.8／撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県東部の常緑広葉樹林下に生育するが、谷間の自然林の減少にともない自生地が少なくなった。自生地域はシカの食害で草本類の減少が目立ち、絶滅が懸念される。

■**特徴**：シラカシ、ウラジログシの多い岩場や谷間の湿った場所に生育する夏緑性のシダ植物。葉身は30–80 cm。鱗片は楕円状披針形、褐色。根茎は横走する。谷間に多く見られるシケチシダに似るが、辺縁にかわ質があることで見分ける。近年、東部の若桜町や智頭町、八頭町の一部ではシカの食害で林床植生が衰退しており、山地に生育する本種も絶滅が懸念される。

■**分布** 県内：八頭町、若桜町。県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：谷間の自然林の保護。シカの食害対策。

■**文献**：—

執筆者：坂田成孝

イッポンワラビ イワデンダ科

Cornopteris crenuloserrulata (Makino) Nakai

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



採取標本：高鉢山 1973.7.8／田中昭彦

■**選定理由**：県内では高鉢山溪谷沿いの草地にて確認・採取されたものが唯一の記録。近年の生育確認はできておらず、現状不明である。

■**特徴**：陰湿なブナ林の林床に生育する夏緑性のシダ植物。葉は叢生し、長さ約40 cm、三角状楕円形、3回羽状深裂。羽片は中央部が最大、基部小羽片は小型、下面羽軸に細い鱗片と毛が混生する。県内の個体群は分布南西限。高鉢山の自生地は狭く険しい谷沿いで近づく道がなく、調査が著しく困難なため、近年の生育実態は不明。

■**分布** 県内：鳥取市佐治町（高鉢山）。県外：北海道、本州。

■**保護上の留意点**：生育地周辺のブナ林保護。

■**文献**：—

執筆者：田中昭彦

オオメシダ イワデンダ科
Deparia pterorachis (H.Christ) M.Kato

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：—



若桜町 1990年代 / 撮影：木原清志

■**選定理由**：若桜町内のブナ林下に県内唯一の自生地が確認されていたが、近年の状況は不明。もともと数株の小群落のため絶滅が心配される。

■**特徴**：山地の渓谷沿いに生育する夏緑性の大型シダ植物。葉柄は長いもので70 cm、太く、基部の鱗片は広披針形、赤褐色。葉身は長楕円形、長さ50–100 cm、幅20–40 cm、2回羽状複葉。県内では、鳴滝山ブナ林の陰湿な林下で確認されていたが、最近10年は状況不明。分布西限と考えられ、現地での詳細な調査が望まれる。

■**分布** 県内：若桜町。県外：北海道、本州（中部以北）。

■**保護上の留意点**：山地渓谷の自然林保護。

■**文献**：23。

執筆者：田中昭彦・永松 大

イワヤシダ イワデンダ科
Diplaziopsis cavaleriana (H.Christ) C.Chr.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



氷ノ山 2006.8.14 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内東部から中部に分布し、生育地は多いが個体数は少ない。山地渓谷に自生するが、近年東部の自生地はシカの食害が激しい。

■**特徴**：深山の渓谷の森林下に生える夏緑性のシダ植物。根茎は直立または斜上、叢生する。単羽状、側羽片は10対内外。葉は草質で薄い。胞子はソーセイジ状の胞膜に包まれる。群生は少なく数株が点々と自生する。若桜町、智頭町の自生地の多くがシカの食害地であり、減少が心配される。類似したイワガネソウは、単羽状か2回羽状複葉、胞子は脈にそって網状につく。

■**分布** 県内：若桜町、鳥取市・佐治町、智頭町、三朝町。県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：ブナ帯域の自然林保護。シカの食害対策。

■**文献**：—

執筆者：坂田成孝

フクロシダ イワデンダ科
Woodsia manchuriensis Hook.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



氷ノ山 2010.8.16 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では氷ノ山、三国山のブナ林岩上に自生するのみで個体数は少ない。自生地周囲の環境変化で生育悪化が心配される。

■**特徴**：ブナ林の岩上や岩隙に生育する夏緑性のシダ植物。根茎は短く直立、塊状で鱗片を密生。鱗片は披針形、膜質、淡褐色。葉は2回羽状深裂、狭披針形、長さ20 cm内外で下部の羽片は短い。胞子囊群の胞膜は球形袋状で、和名の由来となっている。自生している氷ノ山の渓谷岩上では、周辺の倒木により乾燥が進んでいる。周辺ではシカ食害で岩上のみ植物が残る場所もあり、継続観察が必要である。三国山ではブナ林下の尾根岩上に生育、個体数は少ない。

■**分布** 県内：若桜町、三朝町。県外：北海道から九州。

■**保護上の留意点**：ブナ林の保全、管理。採取防止。

■**文献**：—

執筆者：坂田成孝

イワデンダ イワデンダ科

Woodsia polystichoides D.C.Eaton

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



大山 2009.7.28/撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：観葉植物として人気が高く、採取圧が高い。県内では生育地が限定されており、個体数も少数。

■**特徴**：ブナ帯域の明るく湿潤な岩場に生育する小型の夏緑性シダ植物。葉は根茎から多数束生し、高さが20–40 cmになる。葉柄は長さ5–10 cm、細い針金状で、赤褐色を帯びる。胞子嚢は円形、皿状、縁に沿って一列。乾燥時は羽片がまきあがる。和名のデンダはシダの古名。岩上に生育することからこの名がついた。ブナ帯に多いが、三徳山（北斜面）では標高300 m付近から出現する。

■**分布** 県内：若桜町、八頭町、鳥取市河原町・佐治町、三朝町、琴浦町、大山町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：採取防止。山地の溪谷沿いや湿潤な岩場の植生保護。

■**文献**：—

執筆：鷲見寛幸

クラガリシダ ウラボシ科

Dryotaenium miyoshianum (Makino) Makino

鳥取県：絶滅 (EX)

環境省：絶滅危惧IB類 (EN)



智頭町/撮影：木原清志

■**選定理由**：県内では過去4カ所で確認されていた。50年ほど前、三徳山より神倉に通じる山道脇のミズナラ樹幹上で確認。若桜町諸鹿では25年ほど前、川沿いのケヤキ上で確認、その後ケヤキの枝が切り払われ消失、周辺にもなし。若桜町茗荷谷では30年ほど前、神社のサクラ古木上で確認。その後サクラ伐採のため消失。智頭町では15年ほど前、大呂の神社石垣上で確認、石垣改修のため消失した。

■**特徴**：山地の樹木や岩上に着生するシダ植物。根茎は短く、密に黒褐色の鱗片をつける。葉は狭線形、長さ約30 cm、先端に向けて狭くなり、全縁。中肋は表面がへこみ溝状、下面は著しく隆起する。胞子嚢は線形。

■**分布** 県内：絶滅。県外：本州中部から西日本にわずかに点在。

■**保護上の留意点**：—

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

ホテイシダ ウラボシ科

Lepisorus annuifrons (Makino) Ching

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



若桜町 2010.8.20/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：ブナ帯域の樹木および岩上に着生するが、着生に適した樹木の枯死などのために個体数の減少がみられる。

■**特徴**：深山溪谷の岩上や樹幹に着生する夏緑性のシダ植物。根茎は横走し、密に宿在性の鱗片をつける。葉は単葉で幅広、披針形。基部はくさび形、先端は尾状鋭突頭、全縁で波状、長さ20 cm内外、幅4 cm。胞子嚢は円形で小さく、中肋よりにつく。ブナ帯の樹幹にはミヤマノキシノブも着生するが根茎が細く、鱗片は早落性、葉の幅も1 cm内外。若桜町広留の溪谷林はナラ枯れで荒廃し、樹幹に着生していたホテイシダ、シノブなどのシダ類が枯死した。八頭町ふるさとの森の谷間岩上からは、増水時に流失した。現在切り立った岩上にわずかに残るのみ。

■**分布** 県内：若桜町、八頭町。県外：北海道から九州。

■**保護上の留意点**：山地溪谷の自然林保護、採取防止。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

サジラン ウラボシ科

Loxogramme duclouxii H.Christ

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



鳥取市 2004.4.28/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では深山の樹幹，岩上に着生するが，自生地は限られ個体数も少ない。園芸目的で採取されることも多い。

■**特徴**：山地溪谷上の岩上や樹上に着生する常緑性のシダ植物。葉身は全縁の単葉，革質で倒披針形，長さ15–30 cm。胞子囊群は線形，葉の上部から中部にかけて平行につく。根茎は横走。自生地と個体数は減少がみで，人工造林による森林環境の変化による影響が考えられる。

■**分布** 県内：若桜町，鳥取市佐治町，三朝町，伯耆町。県外：本州（関東以西），四国，九州。

■**保護上の留意点**：採取防止。山地溪谷沿いの岩場や自然林の保護。

■**文献**：—

執筆：田中昭彦

クリハラン ウラボシ科

Neocheiropteris ensata (Thunb.) Ching

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



鳥取市福部町 2006.4.7/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内の自生地は数カ所に限られる。絶滅した場所もあるが，他の自生地では群生することが多い。

■**特徴**：森林内の湿った地上や岩上に生じる常緑性のシダ植物。しばしば群生する。葉身は単葉で大型，広披針形で長さ50 cmにも達する。中央部が最も広くなり，葉脈は複雑な網状になる。大型の葉で群生し，人目につきやすい自生地も存在するので個体群衰退の兆候をつかみやすいが，自生地が限られるため，注意が必要。

■**分布** 県内：鳥取市福部町，八頭町，米子市，伯耆町。県外：本州（関東以西），四国，九州，沖縄。

■**保護上の留意点**：自生地の環境改変防止。

■**文献**：80.

執筆：田中昭彦・永松 大

アオネカズラ ウラボシ科

Polypodium niponicum Mett.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



湯梨浜町 2010.9.13/撮影：磯江茂秋

■**選定理由**：県内の分布は数カ所，鑑賞目的の採取，着生する樹木の衰退や岩場の乾燥化で，個体数が減少している。

■**特徴**：照葉樹林内の樹幹や岩上に着生するシダ植物。径4–5 mmにもなる肉質で緑白色の根茎が横走する。夏に落葉し冬緑性。葉身は長さ10–25 cm，単羽状深裂で白毛がある。胞子囊は大型。掲載写真の場所のアオネカズラは，後日盗掘されているのが見つかった。

■**分布** 県内：八頭町，鳥取市佐治町，湯梨浜町，倉吉市，日野町。県外：本州（関東以西），四国，九州。中国南部。

■**保護上の留意点**：地域住民への保護意識の啓発と行政による監視。照葉樹林の保護が必要。

■**文献**：45.

執筆：長 兼巳

オオエゾデンダ ウラボシ科

Polypodium vulgare L.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)



湯梨浜町 2010.6.30/撮影：磯江茂秋

■**選定理由**：県内の自生地は1カ所のみで株数もわずか。自生地でのキツタ等の繁茂にともなって個体群の衰退が著しい。

■**特徴**：山地林内の樹上や岩上に生育する常緑性のシダ植物。根茎は短く横にはい、葉身は卵状長楕円形で羽状深裂、5-15対。自生地ではオオエゾデンダは岩崖との境界部に線状に生育しているが、ノイバラやキツタに被陰され、10年前と比べて明らかに縮小している。

■**分布** 県内：湯梨浜町。県外：北海道，本州（東北以北），隠岐。北半球温帯。

■**保護上の留意点**：自生地を過度に被陰している低木類の管理，刈り払い。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種，鳥取県条例採取禁止指定種

■**文献**：44.

執筆者：磯江茂秋

イワオモダカ ウラボシ科

Pyrosia hastata (Houtt.) Ching

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



琴浦町 2010.5.1/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：岩や樹幹に着生するが，深山渓谷の成熟木伐採にともなって激減した。独特な葉の形状のため園芸用に採取され，手の届く場所には見られない。

■**特徴**：県内では氷ノ山，大山の深い渓谷の高木に着生する常緑性のシダ植物。根茎は短く横走，葉を接してつける。葉は単葉で3-5裂。葉裏に星状毛が密生，褐色。胞子嚢は側脈に沿ってならぶ。氷ノ山山系では50年ほど前は渓谷沿いのトチノキやミズナラの樹幹に多く見られたが，伐採されたため現在では深い谷間の古木にわずかに着生するのみ。大山東側の渓谷では自然状態が保たれており，自生地の状況は今のところ安定。

■**分布** 県内：若桜町，琴浦町，大山町。県外：北海道から九州。

■**保護上の留意点**：深山渓谷の自然林保護。特に成熟木の伐採禁止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆者：坂田成孝

ビロードシダ ウラボシ科

Pyrosia linearifolia (Hook.) Ching

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



琴浦町 2010.5.1/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内ではもともと自生地は多くないが，園芸目的のために乱獲され，減少している。

■**特徴**：渓谷沿いの岩上や樹上に着生する常緑性の小型シダ植物。細い根茎が長くはい，長さ2-10 cm程度の単葉をつけて垂れ下がるが多い。形はノキシノブに似るが，葉の両面には褐色の星状毛を密生し，これをビロードに見立てる。

■**分布** 県内：鳥取市福部町，八頭町，若桜町，智頭町，三朝町，琴浦町，伯耆町。県外：北海道から沖縄まで分布は広いが，点在。

■**保護上の留意点**：山地渓谷の自然植生保護。採取防止。

■**文献**：—

執筆者：田中昭彦

デンジソウ デンジソウ科

Marsilea quadrifolia L.

鳥取県：絶滅 (EX)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



岡山県自然保護センター 2010.9.17 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では過去には各地に見られたが、初版調査時に生育が確認できず、絶滅とされた。その後も、継続して水田を中心とした観察が各地で行われたが、生育は確認できていない。除草剤の影響が疑われる。用水路はコンクリート化され、農業用ため池の管理形態が変化してデンジソウの生育に適した水湿地が失われたためであろう。

■**特徴**：水田や池沼、溝などの水湿地に生育する夏緑性のシダ植物。根茎は細く泥土の中をはって群生する。四葉のクローバーに似た四枚の小葉を水面に浮かべ、「田」の字に見えることに由来するとされる。自生地の減少は全国的な傾向でもある。

■**分布** 県内：絶滅。県外：北海道から九州の低地。

■**保護上の留意点**：—

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

オオアカウキクサ アカウキクサ科

Azolla japonica (Franch. et Sav.) Franch. et Sav. ex Nakai

鳥取県：絶滅 (EX)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



鳥取市気高町 2006.7.7 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：40年ほど前、八頭町西御門で本種が繁茂し、水田が赤くなる現象がみられた。その後の水田環境変化により県内での確認地はなくなった。2004年鳥取市水尻池西側の水田に集団が見つかり、兵庫県立人と自然の博物館・鈴木武氏により在来の但馬型と同定された。冬季は、周囲からかん養される用水路内で生育し、夏季の湛水中は水田の取水口付近に繁茂がみられた。2007年以降当該水田は休耕となり、それ以降毎年の調査で見つからないため絶滅と判定。

■**特徴**：絶えず水が流れる水路や水田に群生。

■**分布** 県内：絶滅。県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：形態では区別が困難な外来のオオアカウキクサ（特定外来生物）が米子市内の加茂川や水鳥公園周辺に見られ、駆除が必要。

■**特記事項**：2004–2006年生育を確認、その後再び生育なし。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

ツガ マツ科

Tsuga sieboldii Carrière

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



八頭町 2010.11.4 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：以前は県内山地の尾根に見られたが、植林などで伐採されて自生地が減少し、ツガ林としては八頭町伊呂山に生育するのみ。太平洋側では普通に見られるが、日本海側ではきわめて希少である。

■**特徴**：常緑針葉高木。葉は線形、長さ1–2 cm、先端はへこむ。同じ枝でも長短の差が大きい。葉柄は直角に曲がって枝に密着する。葉の裏は白い2本の気孔腺が目立つ。球果は長さ2–3 cmの楕円形–卵形、熟すと果柄が曲がって真下を向く。八頭町大江のやせ尾根に生育していた1株は、斜面崩落により消滅した。八頭町猫山のやせ尾根にも数本が孤立的に生育する。日野町内のスギ植林地に数本が生育するが、伐り残し状態で、スギ伐採時に消滅する可能性が高い。

■**分布** 県内：八頭町、日野町。県外：本州（福島県以南）。

■**保護上の留意点**：近隣住民および林業関係者への啓発。

■**文献**：—

執筆：西尾幸弘

ミヤマビャクシン ヒノキ科

Juniperus chinensis L. var. *sargentii* A. Henry

鳥取県：絶滅危惧I類(CR+EN)

環境省：—



若桜町 2008.7.19/撮影：丸岡信行

■**選定理由**：県内の安山岩の岩崖に自生する。分布は2カ所で個体数もわずか、生育環境は不安定で絶滅の危険性が高い。

■**特徴**：岩崖にはえる常緑低木。ビャクシン（別名イブキ：太平洋側に自生する高木で、庭木、生垣に利用）の変種。ミヤマビャクシンは夏季の高温・乾燥、冬季の低温、風衝に対応して幹は岩をはい、枝は斜上して50 cmほどになる。稚樹は針葉をつけ、成木では鱗片葉となる。以前から赤倉山にあるとの情報はあったが、初版編集時には生育が確認できず、掲載が見送られていた。その後県内2カ所で生育確認。

■**分布** 県内：若桜町（氷ノ山赤倉山）、琴浦町（東大山勝田ヶ山）。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：岩崖地の自然植生の保護と採取禁止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：32,38,39.

執筆：坂田成孝・丸岡道行

ネズコ（クロベ） ヒノキ科

Thuja standishii (Gordon) Carrière

鳥取県：絶滅 (EX)

環境省：—



島根県隠岐の島町 2009.10.17/撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：本州中部以北に自生する常緑針葉樹。本県では鳥取市佐治町の標高800 m付近の岩角地にヒノキに混じって自生していた。これを自家の建築材として伐採し、土台として利用していたという。2000年に2つのグループが残存木の有無について野外調査を行ったが見つけれず、絶滅したと考えられる。

■**特徴**：常緑高木。樹皮は赤褐色で縦裂し、薄くはがれる。葉は十字対生、大きさはヒノキとアスナロの間。裏面の気孔線はヒノキのように白くならない。

■**分布** 県内：絶滅。県外：本州（中部以北に多産）、隠岐、四国。

■**文献**：—

執筆：西尾幸弘

イチイ イチイ科

Taxus cuspidata Siebold et Zucc.

鳥取県：その他の重要種(OT)

環境省：—



船通山 2006.9.21/撮影：永松 大

■**選定理由**：中国地方では希少な樹木。県内でも個体数わずか。寿命の長い樹木であり、すぐに絶滅する危険性はないが、注意が必要である。

■**特徴**：高さ20 mになる常緑高木。葉は線形で、長さ20–30 mm。船通山のイチイは標高約1000 m付近の斜面にあり、胸高直径約90 cm、高さは5 mほどで斜面をはって枝が伸びており、枝張りは20 m以上に広がる。積雪と強風のため、近年幹頂部がひしゃげ横に伸びている。他の個体も同様にずんぐりしておりキャラボクと比べると樹高は高いが、明確な区別は困難。細工しやすい良材とされる。

■**分布** 県内：日南町（船通山、岩樋山）。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：岩崖地の自然植生の保護と採取禁止。

■**特記事項**：国指定天然記念物「船通山のイチイ」

■**文献**：21.

執筆：永松 大